

視点 (651)

日本のSC (兵庫県尼崎市)
 「グンゼタウンセンターつかしん」(その6) !!
 (流通とSC・私の視点(650)より続く)

再生つかしんの4つの“場”づくり

再生つかしんのもう1つの目玉は“場”づくりである。家庭でもない職場でもない、家の近くでの異次元空間のある“場”を第3の空間という。再生つかしんの“場”づくりは旧つかしんが持っていた商環境の良さを、勝ちパターンのSCとして蘇生させた(もったいない理論)。再生つかしんのデザインテーマは「アウグスブルクの景観(街並み)」とした。

再生つかしんには4つの地域住民の交流の“場”を戦略的に設置している。

第1の場は「ロマンチック広場」(ロマンチック通り含む)である。尼崎市の姉妹都市であるドイツのアウグスブルグをデザインテーマとして広場づくりを行っている。再生つかしんが地域の住民の新しいライフスタイルへのあこがれを持てるSCに生まれ変わるとの強い願望を持ってアウグスブルクのロマンチック街道からイメージ展開し、名付け、地域の顔・地域の待ち合わせの場の役割を持たせた。

第2の場は「フードコートA I(あい)」である。グンゼは綾部市で110年前に地域の産業振興という高い志を持って設立された繊維会社である。それゆえに、地域の人々に役に立ちたいという考え方が会社の信条でもあり、グンゼ塚口工場の跡地である再生つかしんも、フードコートを地域のためになる地域の交流の場として、尼崎市の頭文字の“A”と伊丹市の頭文字“I”を取ってフードコートA I(あい)と名付け、同時に、住民にやさしい・客にあいされたいという“愛”をダブらせた。フードコートA Iは、アウグスブルクの街並みをデザイン化し、住民の井戸端会議の場となり、また、外部にテラスゾーンを用意し、気候が良い日には、目の前のカリヨンガーデンの絶景の中でカフェや食事やくつろぎができるようにした。

第3の場は「カリヨンガーデン」である。カリヨンガーデンは景観のすばらしさ(絶景)の中にカリヨンの塔が立ち時刻を示す音がさわやかである。カリヨンガーデンは、外部の飲食店棟の街並みと伊丹川沿いの園芸と水遊びが出来る噴水を加えたランドスケープによって昼と夜が異なった絶景観をかもしだしている。カリヨンガーデンはグンゼの発祥の地である綾部市を心の理想郷として景色のある広場を表現した“場”であり自然と人工の景観が昼と夜の光演出と融合した“場”となっている。正に、建物と園芸と水遊びが出来る噴水と光の調和による景観(絶景)を売りにしている。

第4の場は、「チャーチ広場」である。旧つかしん時代につくられたチャーチの前にあり、子供やペットと共に遊ぶ場として親しまれてきた。唯一旧つかしんのオープンモールの良さが活用されていた場であったためにチャーチ広場の名を残した。阪神間 1級のペットショップを教会広場に面して導入していることから、子供やペットと一緒に楽しむ場、さらには盆踊りや祭の場として再生つかしんのアクティブな“場”となっている。

このように、再生つかしんは、地域の交流の“場”を基軸とし、そのデザインテーマをアウグスブルクの景観(街並み)を取り入れている。これは尼崎市の姉妹都市との関係をより強化するために尼崎市の行政の指導の基に民間親善外交を深めることに役立っている。再生つかしんは、「住民が自慢し、誇りに想うSCづくり」を理念とし、中心市街地が本来持つべき街づくりをショッピングセンターという場所で具体化させた。

(流通とSC・私の視点(652)へ続く)

(株)ダイナミックマーケティング社³
 代 表 六 車 秀 之